

## 第7回移動等円滑化評価会議沖縄分科会 議事録

日時：令和7年9月11日（木） 14:00～16:00

場所：沖縄総合事務局 5F 海技試験室（オンライン併用）

### < 議 事 >

- (1) 沖縄における移動等円滑化の進捗状況について
- (2) 沖縄総合事務局の取組みについて
- (3) 国土交通省における建築物バリアフリー化の取組みについて
- (4) 美栄橋公園リニューアル完了とバリアフリー化整備について  
ーバリアフリープロモーターの活用についてー
- (5) ヘルプマーク等の啓発活動
- (6) 質疑応答

### < 議事要旨 >

以下のような提案、要望があげられた。

- ・ゆいレールのホームと車両の段差・隙間の解消
- ・公園整備等のプロモーターの積極活用
- ・車椅子利用者が使用可能な一般トイレの設置
- ・小規模店舗等のバリアフリー化の推進
- ・自治体によるバリアフリー条例制定および県による積極的な支援
- ・わかりやすいバス停のネーミングと障害者への事前周知
- ・観光施設での高齢者・視覚障害者に配慮した案内表示の設置や視認性の確保
- ・新規観光施設におけるバリアフリー対応状況の確認と共有

＜ 出 席 者 ＞

委員

	所 属	職 名	氏 名	参加	代理出席
1	NPO法人エンパワメント沖縄	理事長	タカミネ ユカ 高嶺 豊	現地	
2	NPO法人バリアフリーネットワーク会議	代表者	オヤカワ オサム 親川 修	現地	
3	NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会	理事兼事務局長	ナカネ ケンサク 仲根 建作	現地	
4	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会	地域福祉課長	ナカホド ダイスケ 仲程 大輔	現地	
5	公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会	会長	ヤマダ ケイゴ 山田 圭吾	現地	
6	社会福祉法人沖縄県身体障害者福祉協会	会長	ヤマシロ ミツマサ 山城 充正	オンライン	
7	社会福祉法人沖縄県視覚障害者福祉協会	会長	チバナ ミツヒデ 知花 光英	オンライン	
8	一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会	会長	シロマ エリコ 城間 枝利子	現地	
9	公益財団法人沖縄県老人クラブ連合会	常務理事兼事務局長	シンジウ トモミ 新城 智美	オンライン	
10	公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会	理事長	タナカ ヒロシ 田中 寛	欠席	
11	沖縄県発達障害者支援センター	相談支援員	ヤマザト メグミ 山里 恵	オンライン	
12	沖縄都市モノレール株式会社	技術部長	ナガハマ マサカツ 長浜 正勝	現地	
13	一般社団法人沖縄県バス協会	事務局長	タカエス マコト 高江洲 誠	現地	
14	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長	ツハコ オサム 津波古 修	現地	
15	一般社団法人沖縄旅客船協会	専務理事	タイラ キミタカ 平良 公孝	現地	
16	一般社団法人沖縄県レンタカー協会	専務理事	ヨコタ ショシ 與古田 思好	現地	
17	一般社団法人沖縄県ホテル協会	会長	タイラ チョウケイ 平良 朝敬	現地	カデカル タカオ 嘉手苺 孝夫
18	那覇空港ビルディング株式会社	施設部施設課長	オオシロ エイジ 大城 英二	オンライン	イレイ イズル 伊礼 出
19	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	国内事業部長	キンジウ オサム 金城 修	欠席	
20	沖縄県企画部	交通政策課長	タイラ ヒデハル 平良 秀春	現地	シンジウ ニユヤ 新城 裕也
21	沖縄県土木建築部	施設建築課長	トウヤマ マキ 當山 真紀	現地	トミタ イサオ 富田 功
22	沖縄県生活福祉部	障害福祉課長	オオワン トモタカ 大湾 朝貴	欠席	
23	沖縄県文化観光スポーツ部	観光振興課長	オヤフソ エイジ 親富祖 英二	現地	ナカムラ シュンキ 中村 俊貴
24	沖縄県教育庁	生涯学習振興課長	ホリカワ ユキヒロ 堀川 恭宏	オンライン	ウエハラ ノミ 上原 希
25	沖縄県警察本部交通部	交通規制課交通管制官	マツモト リュウタロウ 松本 竜太郎	現地	
26	那覇市都市みらい部	都市計画課長	マエハラ ノブヒロ 前原 信博	現地	ササトミ ケイスケ 笹富 佳佑
27	那覇市福祉部	福祉政策課長	アザマ ツトム 安座間 勉	欠席	
28	那覇市こどもみらい部	こども教育保育課長	トウマ カズヤ 當間 一也	欠席	

事務局

	沖縄総合事務局運輸部	運輸部長	ホンムラ リウヘイ 本村 龍平	欠席	
	沖縄総合事務局開発建設部	建設行政課長	ハマドウ タクロー 濱道 拓郎	現地	
	沖縄総合事務局運輸部	企画室長	カメタニ マサヤ 亀谷 匡哉	現地	
	沖縄総合事務局開発建設部	建設産業・地方整備課	ホカマ ヨシユキ 外間 喜之	現地	

＜ 議 事 録 ＞

1. 資料についての質疑応答

番号	発言者	内容
1-1	脊髄損傷者協会 仲根委員	<p>バリアフリーの第4次の目標が示され、ゆいレールの段差解消が100%とあったが、実際は、段差、隙間問題は、車いすユーザーにとっては解消されたという認識はない。引き続き、段差と隙間解消のご努力をお願いしたい。</p> <p>公園のプロモーターの活用についてだが、美栄橋公園はフルオープン整備で少し不安であったが、地域や企業の連携でこのような整備ができた。プロモーターの声も反映してもらって感謝している。案内、表示板の整備もよくできている。1年たってもオートバイ、自転車の駐車もない。その他の都市公園や公園以外の施設でも、今回のようにバリアフリーについての意見を反映してもらいたい。お声掛けをいただければ対応したい。</p>
1-2	都市モノレール 長浜委員	ホームと車両の隙間については、法律問題もあり、難しいところもあるが、できるだけ対応していきたい
1-3	(後日連絡) 事務局から 脊髄損傷者協会 仲根委員あて連絡	<p>(補足説明)</p> <p>『段差の解消』とは、『エレベーター、エスカレーター等の設置』という意味で、100%と計上しております。</p> <p>第4次目標ではあらたに『プラットホームと車両の段差・隙間を縮小する』を掲げ、2030年度末までに全国で『4000番線』を目指すことを目標にしております。</p> <p>当室におきましても、引き続きプラットホームと車両の段差・隙間解消について、事業者様に働きかけてまいります。</p>
1-4	高嶺委員	資料3、国土交通省の建築物のバリアフリー化についてだが、いろいろな面で改善されているようでうれしく思う。9ページに現行との見直し案の比較があるが、赤字で「車椅子使用者の到達可能な車椅子使用者用便房を設ける」とあるが、一般の車椅子利用の基準と合うような車椅子用トイレではなく、車いすが到達できるトイレであればよいのかと解釈していいのか。
1-5	事務局 外間整備官	注記の便房とは大便器があるもので、周辺には仕切りがあり、入口も車椅子が入れるような改善を行ったものが該当する。
1-6	高嶺委員	<p>車椅子用のトイレは多目的が多く、車椅子使用者が順番待ちになっている状況もあるが、一般のトイレでも入口が広めであれば、車椅子利用者の中にも一般のトイレを利用できる人もいることから良いと思う。</p> <p>資料3の19ページに令和7年4月時点で20自治体でバリアフリー法にもとづく条例が制定されているとあり、右に床面積の合計500m<sup>2</sup>未満を対象としている自治体とあるが、今の基準が2000m<sup>2</sup>になっているのを緩和して、小さな建物でも義務化に</p>

番号	発言者	内容
		向けてということですのでごく好ましいと思う。車椅子利用者にとって、大きなスーパーは毎日行くところではなく、バリアフリーが必要なのは、地域の店やレストランであり、本当は小さな店舗のバリアフリー化を進めてほしい。まだまだ条例を定めている市町村は少ないが、県では制定を考えているのか。
1-7	県土木建設部 富田課長代理	当課は施設整備担当のため、バリアフリー法担当に当会議でこのような質問があったことを伝えておく。
1-8	高嶺委員	総合事務局としては各市町村に条例の制定を呼びかけているのか。
1-9	事務局 外間整備官	プロモーションは行っていないが、必要ということであれば行っていききたい。条例制定については県の判断になると思う。
1-10	高嶺委員	沖縄県も条例をつくってもらって、バリアフリー化を積極的に進めてほしい。沖縄県は観光バリアフリーを積極的に行っているが、条例でもってバリアフリー化を各地域で進めてもらいたい。
1-11	視覚障害者福祉 協会 知花委員	<p>前回会議のオンラインは人によって聞こえづらいところがあったが、今日はよく聞こえて、音声もクリアで安定していた。</p> <p>乗合バスについてだが、会社によって車種が違い、車種が違くと車内放送の操作する機械も違うと思うが、バスによっては、ドアが開いていれば、系統、行き先の音声案内を繰り返し行っているバスがある。視覚障害者にとって、この音声案内が非常にわかりやすいので、全バスで導入してもらえると助かる。</p> <p>また、バス停の名称が近くのホテル等に変わっているが、地名を抜いたバス停名が増えていくと、どこに来ているのかがわからなくなる。今後、このようなバス停が増える傾向にあると思うので、地名を含めた名前にできないか。松尾バス停の名前がホテルコレクション前に変わって、初めて乗車したときは、牧志と松尾の間に新しいバス停ができたかと思い、松尾バス停を乗り過ぎてしまった。</p>
1-12	バス協会 高江洲委員	<p>自動放送の音声は、バスの放送機器の機能となっており、機械的に対応可能であれば、各社に相談していきたい。</p> <p>バス停のネーミングライツの対象施設は、バス停から一定の範囲で限定しているが、わかりにくいということなので、ご意見を踏まえて考えたい。ポスターで事前告知を行っているが、視覚障害者福祉協会には事前に周知したいと思う。</p> <p>バス停名に第一、第二の名称がついているものは、まるごと更新するなどのルールを設定しているが、ルールの見直しを検討したい。</p>
1-13	BFN 親川会長	バス停名が変わった場合は、音声で聞こえない方は文字情報、見えない方は音声情報になるので、それぞれの障害に応じた告知を県、バス協会で行ってほしい。

番号	発言者	内容
1-14	聴覚障害者協会 城間委員	首里城で現地をみて意見交換会を行ったが、聴覚障害者からみて案内が不十分なところがあった。音声のみの案内で視覚情報が少なく、写真撮影に配慮してか、案内の表示の位置が低いところもあり、目線にあわせて設置してほしい。人ごみの中では低い場所の案内は見えにくいので、高齢者にも配慮して、見えやすい場所に案内を設置してほしい。
1-15	事務局 濱道課長	昨年度実施した首里城に関する意見交換会の際の意見として理解している。ご意見については現場にも周知している。
1-16	高嶺委員	空港アクセスバスは13系統あり、すべてがバリアフリーになっているとあるが、どのようなバスが空港アクセスバスなのか。 また、高速バスについては、バリアフリー化はほとんど進んでいないように思えるが、バリアフリー化はどこが担当で、今後どのように進めようとしているのか。
1-17	事務局 亀谷室長	空港アクセスバスの13系統は、手元に資料がないため確認して、報告する。バリアフリー化車両を含む運行系統を計上しているため、各系統でバリアフリー化の車両があれば対応とみなしている。13系統のすべての車両がバリアフリー化に対応しているわけではない。 高速バスについては事実関係を確認して、報告させてもらう。
1-18	(後日連絡) 事務局から高嶺 委員あて連絡	①空港アクセスバスは13系統あり、すべてがバリアフリーになっているとあるが、どのようなバスが空港アクセスバスなのか。 (回答) バリアフリー化の目標を定めている移動等円滑化の促進に関する基本方針(令和2年国家公安委員会、総務省、文部科学省、国土交通省告示第1号)の「一 移動等円滑化の意義及び目標に関する事項 2 移動等円滑化の目標 (2) 車両等 ② 乗合バス車両」においては、いわゆる「空港アクセスバス」について、「令和七年度までに、一日当たりの平均的な利用者数が二千人以上である航空旅客ターミナルのうち鉄軌道アクセスがない施設へのバス路線を運行する乗合バス車両については、当該施設へアクセスするバス路線の運行系統の総数の約五十パーセントについて、バリアフリー化した車両を含む運行として移動等円滑化を実施する」と定められております。 沖縄県内では、石垣空港ターミナル及び宮古空港ターミナルが、この「一日当たりの平均的な利用者数が二千人以上である航空旅客ターミナル」に該当しており、両施設にアクセスするバス路線の運行系統は、石垣空港で8系統、宮古空港で5系統であり、それら13系統の全てでバリアフリー化した車両を含む運行をしていると報告を受けております。  ②高速バスについては、バリアフリー化はほとんど進んでいな

番号	発言者	内容
		<p>いように思えるが、バリアフリー化はどこが担当で、今後どのように進めようとしているのか。</p> <p>(回答)</p> <p>乗合バス事業者が保有するバスの総車両に対するバリアフリー対応台数については調査しておりますが、高速バスに限った調査は行っておりません。</p> <p>沖縄県内の乗合バス事業者からは、基準適合車両562台、適用除外認定車両217台(うち、14台はリフト付きバス等車両)と報告を受けております。</p> <p>バスのバリアフリー化については、沖縄総合事務局運輸部企画室と陸上交通課が担当しており、今後も引き続き、バス車両におけるバリアフリー化率向上について事業者様に働きかけてまいります。</p>
1-19	高嶺委員	<p>ジャングリアのバリアフリーについての情報はまだよく知らないと思うが、次回にでも、どのようにバリアフリーの取組を行っているのか、どのような形でもよいので、発表の機会を設けてほしい。</p>
1-20	事務局 亀谷室長	<p>ジャングリアにも意見があったことを伝えて調整をしたい。</p>
1-21	聴覚障害者協会 城間委員	<p>ジャングリアについては聴覚障害や、車いす利用についての対応について確認してほしい。</p>